

(2) 新潟市の教育施策の主な取組状況と課題 (教育ビジョン「第4期実施計画」より)

「第4期実施計画」では、学びをいかしたり、他者と協働したりしながら、課題解決や自己実現に向けて、様々なことに挑戦し続けるなど、「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育てることで、主体的に物事を成し遂げることができる人材を学・社・民が一体となって育成してきました。

また、「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育てていくために、生まれ育った環境に左右されず、誰もが安心して学ぶことができるよう「新潟市の教育を推進する視点」と「学びの基盤を固める視点」から重点施策を中心とした取組を行ってきました。

新潟市の教育を推進する視点

【視点1】 これからの社会で自信をもって自己実現していけるこどもを育てます。

- [重点施策]
- 資質・能力を育む授業づくりの推進
 - 学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進
 - 外国語教育・国際理解教育の充実
 - 情報教育の充実とICTを活用した教育の推進

【視点2】 学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

- [重点施策]
- 家庭教育・子育て支援の充実
 - 乳幼児期からの読書活動推進
 - 学び育つ各世代への支援
 - 学習成果をいかす活動への支援

【視点3】 地域と一体となった学校づくりを進めます。

- [重点施策]
- 地域とともにある学校づくりの推進

学びの基盤を固める視点

【視点4】 誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

- [重点施策]
- いのちの教育・心の教育の推進
 - 自立を促す生徒指導の推進
 - 健康づくり・食育の推進
 - こども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進
 - 保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進
 - 教育の機会均等を図るための取組の推進
 - 市民の多様な学習に応じた学習環境の整備

【視点5】 市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。




- [重点施策]
- 教育関係職員の研修プログラムの充実



【視点1】 これからの社会で自信をもって自己実現していけるこどもを育てます。

- 主体的に物事を成し遂げようとするためには、自分で自分の価値を認め、自分を大切にしようとする気持ち、すなわち自己肯定感が重要です。他者から認められることに加え、自分の取組を振り返り、成長を実感することで、こどもは目標に向かって、失敗からの学びを糧とし、挑戦し続ける体験を通して自己肯定感を高めます。
- 学習指導要領などの趣旨を踏まえた着実な実践により、言葉を用いたコミュニケーションだけでなく、コミュニケーションツールとしてICT機器を用いたり、行動を通して思いを伝えたりするなど、柔軟にコミュニケーションすることができる力を高めることを通じて、人とのかかわりの中で自信をもって自己実現していけるこどもを育てます。

【主な指標の状況】

成果指標	当初値 (2019)	現状値 (2023)	傾向	目標値 (2024)
将来の夢や目標をもっていますと肯定的に回答したこどもの割合	小6 84.9% 中3 71.8%	小6 80.7% 中3 64.7%		小6 86.0% 中3 74.0%
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますと肯定的に回答したこどもの割合	小6 83.8% 中3 82.8%	小6 83.5% 中3 84.7%		小6 90.0% 中3 90.0%
コンピュータなど授業でICTを週1回以上使用しましたと回答したこどもの割合	小6 22.9% 中3 22.3%	小6 96.9% 中3 98.5%		小6 90.0% 中3 90.0%

【成果と課題】




学校全体で支持的風土の醸成を図るため、こどもたち一人一人の自己肯定感を高める教育活動の実践・啓発や、キャリア・ノートやキャリア・パスポートの活用を促してきました。これらを通して、自分を振り返り、成長を実感させることで、自己肯定感を高め、夢や目標をもつこどもたちを育てられました。

しかし、依然として「将来の夢や目標をもっている」と肯定的に回答しているこどもたちの割合は減少傾向にあり、全てのこどもたちが夢や希望をもって自己実現していけるための支援体制の継続と強化が必要です。

【視点2】 学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

- 人生100年時代の到来を見据え、「ともに学び、育ち、創る」生涯学習社会の一層の充実が求められています。家庭教育や学校教育、社会教育、生涯学習活動で培った能力や知識・経験をいかし、ボランティア活動などに取り組み、それらを通して新たな学習活動に進むなど、学習成果をさらなる活動にいかすことが大切です。そのために、誰もが、いくつになっても、何度でも学ぶことができ、新たな自分を発見したり、生きがいを見つけたりすることができる場を提供していきます。また、自ら学んだ成果を地域でいかし、学びを継承していくことで、新たなつながりを広げ、地域課題の解決や地域の活性化を推し進める人材を育成する循環型生涯学習の推進に一層力を入れていきます。

【主な指標の状況】

成果指標	当初値 (2019)	現状値 (2023)	傾向	目標値 (2024)
家庭教育学級でのアンケートで「今後にいかすことができる」と回答した参加者の割合	84.4%	91.2%		90.0%
生涯学習ボランティアバンク登録者数	1,367人	1,253人		1,470人
地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業で学んだ成果を今後にかしたいと回答した割合	80.0%	88.2%		90.0%

【成果と課題】



生涯学習においては、「にいがた市民大学」や「生涯学習ボランティア講座」などを実施し、市民のライフスタイルに応じた学習機会の提供や、ボランティア活動の場の拡充を進めてきました。

また、家庭教育においては、子育て世代を対象とした「家庭教育支援プログラム」の実施や「子育てサロン」を開設し、親としての考える力や適応する力の向上を図りました。さらに乳幼児期からの読書活動推進のために、「ブックスタート事業」などを通じて、家庭における絵本の読み聞かせの大切さを働きかけました。一方、ボランティアの高齢化や固定化といった課題も見受けられます。今後は、関係機関との連携をさらに進め、多様な学習機会の提供や人材育成に取り組むとともに、学習成果を人づくり、地域づくりにいかす活動を支援していく必要があります。

【視点3】 地域と一体となった学校づくりを進めます。

- 「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」の取組の推進によって、地域の力をいかした教育活動を行ってきました。こどもたちの学びの充実だけでなく、安心安全や学校経営に対する評価など、様々な場面で地域と学校が深くかかわっています。その取組で得られた成果を最大限にいかし、地域と学校が目標を共有し、一体となった取組を進めることで、より多くの人材が学校づくりに参画できるようにし、こどもの学習活動をますます豊かなものにしていきます。

【主な指標の状況】

成果指標	当初値 (2019)	現状値 (2023)	傾向	目標値 (2024)
学校運営協議会の制度が機能していると回答した協議会の割合	88.0%	96.0%		90.0%
1校あたりの学校支援ボランティア延べ人数	1,989人	2,240人		2,170人

【成果と課題】

「地域とともにある学校づくり」を進めるため、全市立小中学校などに保護者、地域、学校による学校運営協議会を設置し、一体となってこどもの成長を支える体制を構築しました。そこでは、保護者、地域の思いが反映された基本方針を練り上げるとともに、肯定的で未来志向の話し合いが行われたことで、地域の未来を託すこどもを育てる機運がより一層高まりました。




地域と学校パートナーシップ事業では、地域と学校双方に「こどもたちのために可能なところから取り組んでいこう」という姿勢が反映され、事業数や学校支援ボランティアの延べ人数が増加しています。

今後は、コミュニティ・スクールと地域と学校パートナーシップ事業を一体的に推進し、保護者、地域、学校が連携・協働し、相互にパートナーとしてこどもたちの成長を支えていく体制をより強固にしていく必要があります。

【視点4】 誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

- 前向きな気持ちで充実した学びを実現していくためには、安心して学びに向かうことができる環境が整っていることが大切です。そのためには、経済的な支援や就学支援、特別支援教育の推進、安心安全な学びの場づくり、健康づくりの支援、学びの機会の提供など、ソフト面とハード面の両面から、一人一人の困り感や意欲に応じた取組や学びに向かう土台づくりが必要です。

【主な指標の状況】

成果指標	当初値 (2019)	現状値 (2023)	傾向	目標値 (2024)
友達のよいところを見つけたり、友達が落ち込んでいるときに励ましたりすることの割合	小6 90.3% 中3 91.9%	小6 91.6% 中3 93.3%		95.0%
登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」を開催した学校の割合	100%	97.0%		100.0%
自分にはよいところがありますと回答した児童生徒の割合	小6 80.1% 中3 78.0%	小6 78.7% 中3 78.7%		小6 85.0% 中3 85.0%

【成果と課題】



子どもたちが、前向きな気持ちで充実した学びを実現していくために、安心して学びに向かうことができる環境整備に努めたほか、道徳教育や福祉教育の充実、及び自律性と社会性を育む生徒指導を推進したことで、自分や友達のよさを実感することの割合は高くなってきています。併せて、地域見守り活動など、地域が学校を支える体制が整ってきています。

一方で、いのちの大切さや人権の視点から、いじめの減少を目指した取組や、不登校の子どもたちの学びの保障についての取組など、子どもたちが安心して学ぶための様々な取組を更に推進するほか、市民の多様な学習ニーズに対応した学習環境の整備に努めていく必要があります。

【視点5】 市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。

- 教育関係職員に対し、社会の変化や職員のキャリアを踏まえた研修を実施し、一人一人の資質・能力を高めるとともに、働き方改革を進め、一人一人がその力を十分発揮できるようにします。

【主な指標の状況】

成果指標	当初値 (2019)	現状値 (2023)	傾向	目標値 (2024)
教育関係職員研修の各研修講座における参加者の満足度	89.0%	82.8%		90.0%
月当たり平均時間外勤務時間が45時間を超える教職員の割合	36.0%	22.1%		前年度以下

【成果と課題】

教育関係職員の研修については、キャリアステージに応じた研修や、教職員の専門性向上に関わるプログラムのほか、現代的教育課題に対応した研修講座を実施するなど、職員の資質・能力の向上に努めてきました。

今後は、教育関係職員一人一人が自らの学びを主体的にマネジメントできるよう、職員研修の高度化を図るとともに、教職員の時間外在校等時間の短縮だけでなく、全ての教職員がいきいきと子どもたちと向き合い、教育を行う幸せを実感できる環境づくりなどを踏まえた学校の働き方改革を進めていく必要があります。